

SAS Technical News

Volume 5 Number 3



**Put the Power
of the World's Leading
Information Delivery
System to Work
in Your Organization.**

CONTENTS

1 特集 SAS/Warehouse Administratorの紹介

4 SUGI-J 98のご案内

6 Q&A

8 「テクニカルサポートサービス満足度調査」集計結果

10 SASトレーニングのお知らせ

11 アップデート情報

12 最新リリース情報

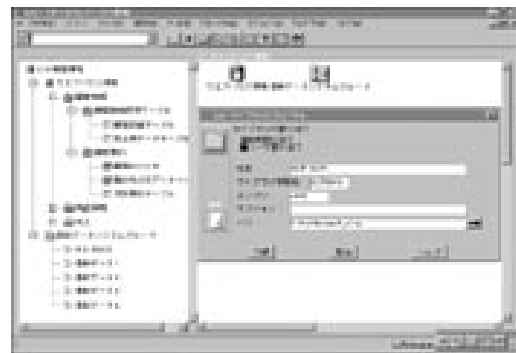
特集

SAS/Warehouse Administrator ソフトウェア

～ 複雑なデータマート/
データウェアハウスプロセスを、
ひとつの操作環境で効果的に管理する



SAS/Warehouse Administratorは、データウェアハウスを構築・管理するIT部門のプロフェッショナルのために開発されたプロダクトで、SASシステムを米国DATAMATION誌の"Product of the Year"賞など、各種のアワード受賞に導きました。SAS/Warehouse Administratorは、流動的に変化しつづける企業のニーズにあわせてカスタマイズ可能な、データウェアハウス管理プロダクトです。SAS/Warehouse Administratorには以下の特徴があります。



高い生産性と効率

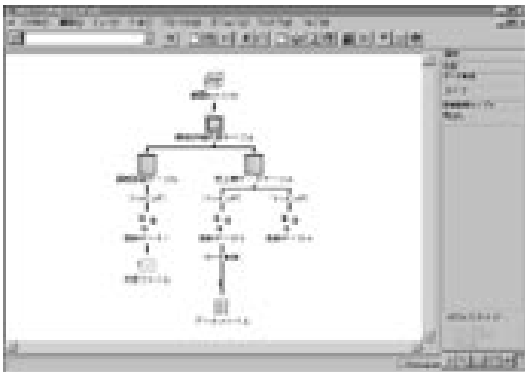
SAS/Warehouse Administratorは、データウェアハウスの定期的なメンテナンス作業を自動化し、IT部門が効果的にデータウェアハウスを管理できるようにします。つまり、SAS/Warehouse Administratorを導入することにより、IT部門では、ドキュメント化されていないプロセスを手探りで進めることによる時間の無駄を省き、エラー発生率を低減させ、さらにビジネスユーザの要求により柔軟に対応できるようになります。

リソースの活用

SAS/Warehouse Administratorは、企業に現存する技術力と人的資源を最大限に活用できるようにします。また他のSASプロダクトや他社製品の技術を統合するスケーラブルなツールとして、企業のコンスタントな成長を促進します。

機能統合とプロセスの自動化

オープンでフレキシブルなSASソリューションは、SASシステムの機能と他製品の機能をシームレスに統合します。つまり、既存のハードウェア、ソフトウェア、データ、そして人的資源を、これまで以上に有効活用できます。複数のシステムにまたがったプロセスの自動化や、レガシーデータと非レガシーデータの統合、既存の技術力の活用などが、簡単に行えます。また、企業内に散在するコードの管理、配置、ドキュメント化も効果的に行えるようになります。



データの完全性と品質

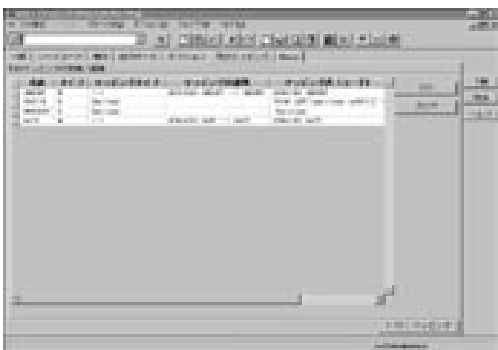
SAS/Warehouse Administratorは、IT部門が矛盾のない正確な情報を入手し、ビジネスユーザに伝達できるようにします。

企業内でのIT部門の認識を高める

SASシステムのデータウェアハウスソリューションの一部として、SAS/Warehouse Administratorは、IT部門が情報を適切なタイミングでビジネスユーザに提供できるようにします。

SAS/Warehouse Administratorはデータウェアハウス管理の複雑さを軽減し、IT部門がビジネスユーザのニーズを理解するために時間を割けるようにします。

意思決定支援システム(DSS)から発展した唯一のデータウェアハウスベンダーとして、SAS Instituteはビジネス戦略上の問題を独自の方法で定義し、立ち向かう姿勢をとっています。SAS/Warehouse Administratorは、複数のデータウェアハウスやデータマートのセットアップや管理をシンプルにします。また、データウェアハウスの構築と管理に必要なデータ抽出・変換・ロードを行う各ツールを統合しているので、ひとつの操作環境ですべての処理を行えます。



SAS/Warehouse Administratorは、メタデータを基本としたアーキテクチャにより、効果的なデータウェアハウス管理を行うための骨組みを提供します。サブジェクト定義やビジネスルールの統一、データウェアハウスのメンテナンススケジュールや意思決定支援ツールとの統合などを促進し、データウェアハウスの効果的な利用を導きます。

現在、エンドユーザの間では、データウェアハウスで強固な基盤を築いた上に、ビジネスインテリジェンスシステムを置くのが好ましいとの見方が広まっています。しかし、IT部門から考えれば、会社全体として戦略的にデータウェアハウスを装備することは、消費する時間とリソースに関して重大なコミットメントを必要とする一大プロジェクトです。基幹系データの抽出、クリーニング、変換、そして適切なりポジトリへのロードを行うには、膨大なプログラムを手書きしなければなりません。このような作業は、すでに多くの仕事を抱えているIT部門のスタッフにとっては、悩みの種でしかありません。

世界最強のデータウェアハウス構築ソフトウェア

SASシステムが提供するデータウェアハウスソリューションは、すでに世界をリードする水準にあると認められ、米国Datamation誌の「Product of the Year Award 1996」賞を受賞しています。SASシステムのデータウェアハウスソリューションは、下記の特徴を持っています。

- ・データウェアハウスの構築から管理、利用までをトータルでサポートするオープンなソリューションで、全社的にデータを統合する際に発生する互換性の問題もクリアします。
- ・プラットフォームから完全に独立し、クライアント/サーバ環境での利用が可能な真のエンタープライズソリューションです。



- ・社内のイントラネットを介してデータウェアハウスを利用するために、Web上での利用をサポートしています。
- ・50を超えるデータソースへのアクセス、データの整備や変換機能など、卓越したデータ管理機能を提供します。
- ・メタデータ(データに関するデータ)を中心に整備されているので、最低限のメンテナンスで継続的なソリューションを提供できます。
- ・Rapid Warehousing Methodologyにより、90日間でデータウェアハウスを構築するコンサルティングサービスを提供しています。

SAS/Warehouse Administratorのリリースによって、IT部門はSASシステムとデータウェアハウスのパワーを最大限に引き出し、データウェアハウスの確かな恩恵をビジネスユーザに素早く広めることができます。

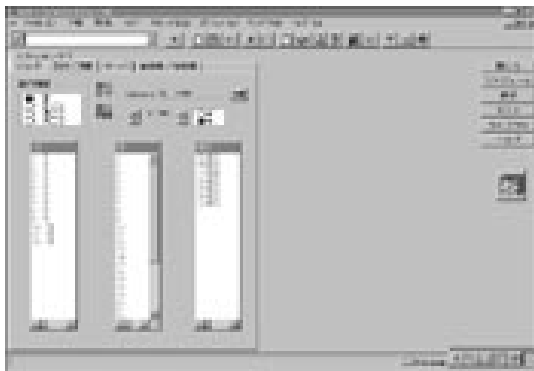
SAS/Warehouse Administratorはひとつの操作環境でデータウェアハウスをコントロールできるので、データウェアハウス管理者は統合されたソリューション、ユーザフレンドリなインタフェースを利

用して、容易にプロジェクトを管理できます。また SAS/Warehouse Administratorは、データウェアハウスの3つのステージ(構築、管理、利用)にかかわるSASプロダクトを統括する役割を果たします。

多くの企業では、さまざまなビジネス上の問題に対応するために、データウェアハウスに複数の階層を持たせたり、データマートを作成します。そのような場合でも、SAS/Warehouse Administratorはひとつの操作環境で、エンドユーザのニーズである「常に正しいデータ」への柔軟なアクセスをサポートします。

また、SAS/Warehouse Administratorの管理機能では、例外処理、データのコピーや削除、ジョブのステータス管理、スケジューリング、そしてメタデータのブラウズなど、各種作業についてインタフェースが用意されているため、毎日プログラムを手書きする手間は必要はありません。

データウェアハウスの管理において、スケジューリングは非常に重要です。SAS/Warehouse Administratorのスケジューラを使用すれば、各種OSに共通したユーザインタフェースを通して、データウェアハウス管理のジョブを発行できます。また、このスケジューラにはログビューが装備されているので、発行されたジョブの状態をすぐに確認することができます。また、サードパーティ製のスケジューラも利用できるインタフェースも備えられています。



SAS/Warehouse Administratorは、エンドユーザをサポートすることにより、データウェアハウス構築とメンテナンスにかかわるIT部門のスタッフを直接支援します。ITスタッフは、エンドユーザからの質問への対応などに時間をとられているのが現状です。しかし、SAS/Warehouse Administratorのデータウェアハウス利用機能では、多くのビジネスユーザが共通して必要とする情報をまとめて提供することができるため、IT部門の時間やリソースを有効に活用できるのです。

データウェアハウスを利用するためのツールには、意思決定支援システム(DSS)やOLAP、データマイニングなどがあります。これらのツールを開発するには、インフォメーションカタログで集中管理されているメタデータを利用します。メタデータを見れば、データの構造や、データウェアハウスへの効率的なクエリーの出し方を理解することができます。このようにして、SAS/Warehouse Administratorはビジネスユーザが、データウェアハウスを最大限に活用して競争の時代を生き抜く方法を知るためのツールとなるのです。



SUGI-J'98

SUGI-J 98開催 ご案内

本年度の「日本SASユーザー会総会及び研究発表会 (SUGI-J '98)」を、下記の要領で開催することが決定しましたので、お知らせします。

日時 : 1998年7月2日(木)~3日(金)
会場 : 明治記念館 (東京都港区元赤坂2-2-23、JR信濃町駅より徒歩5分)
参加費 : 2,000 円
SUGI-J '98 論文集 : 3,000 円 (会場にて販売します)
懇親会参加費 : 5,000 円

申し込み方法

SUGI-J'98へ参加ご希望の方は、右ページの参加申込書に必要事項をすべてご記入の上、ファクシミリまたは郵便にてお申し込みください。電話、電子メールでのお申し込みは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。参加申し込みの締切は、6月16日です。なお、参加証は6月上旬より順次発送いたします。

学部学生または大学院修士課程に在学中の方々
学部学生あるいは大学院の修士課程に在学中の方で、お申し込みの際に学生証のコピーを添付された方に限り、参加費が無料となります。学生証のコピーが添付されていない場合には、一般と同じ扱いとなりますのでご注意ください。なお、懇親会参加は有料(5,000円)となります。

キャンセルについて

参加申し込みのキャンセルは、6月16日まで受け付けます。これ以降のキャンセルはお受けできませんので、あらかじめご了承ください。

イベント概要

日本SASユーザー会総会

過去一年間のユーザー会活動の報告や、SUGI-J'98の見どころをご紹介します。

論文発表

SASシステムを利用したアプリケーション開発、応用事例に関する論文を発表していただけます。発表を希望される方は、SUGI-J'98参加申込書の該当欄にご記入の上、お申し込みください。論文発表のエントリー締切は1998年3月31日、論文原稿の締切は同5月6日です。なお、1論文につき1名様にかぎり、参加費、論文集、および懇親会費が無料となります。詳しくは、お申し込み後に事務局より送られるご案内をご覧ください。

・ Student Session

学部学生または大学院修士課程に在学中の方を対象に、Student Sessionを開催します。Student Sessionにて発表を希望される方は、参加申込書の該当欄にご記入の上、お申し込みください。1論文につき1名様にかぎり、論文集および懇親会費が無料となります。東京以外からの参加者には、旅費の援助も予定しておりますので、ご希望の方は参加申込書の通信欄に「旅

費援助希望」とご記入ください。詳しくは、お申し込み後に事務局より送られるご案内をご覧ください。

シンポジウム

毎年恒例となりましたシンポジウム。タイムリーな話題を取り上げてディスカッションを行ないます。

フォーマルデモンストレーション

SASシステムの新機能や新プロダクト、便利な機能を中心にデモンストレーションでご紹介します。

ハンズオン・ワークショップ

SASシステムのさまざまなトピックについて、1人1台のコンピュータを使用した実習を行ないます。

懇親会

SASユーザー間の情報交換や親睦を深めるための懇親会は、7月2日(木)に開催されます。参加ご希望の方は、参加申込書の該当欄にご記入の上お申し込みください(参加費 5,000円)。なお、当日の参加お申し込みはお受け致しかねますのでご注意ください。

最新情報の提供

SUGI-J'98に関連する最新情報は、SASインスティテュートジャパンのホームページ(<http://www.sas.com/japan/>)およびNIFTY SERVEのSASステーション(GOコマンド GO SAS)より随時ご提供いたします。どうぞご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社SASインスティテュートジャパン内

日本SASユーザー会事務局

Tel: 03-3533-3780 FAX: 03-3533-6927

Email: saswg@jpn.sas.com (お問い合わせのみ)

SUGI-J'98参加申込書

楷書体ではっきりとご記入ください。

フリガナ
所属団体名
(正式名称でご記入ください)

所属部署名

フリガナ
お名前

フリガナ
7ケタの新しい番号をお書きください。
ご住所(〒)

TEL.

FAX.

E-mail

SUGI-J'98参加費

一般(¥2,000) 論文First Author(無料) 学生(無料)
いずれかに必ず印をつけてください。無記入の場合は、一般の扱いとなります。
学生の方は学生証のコピーを必ず添付してください。

懇親会参加

希望する(¥5,000) 希望しない
いずれかに必ず印をつけてください。無記入の場合は、不参加の扱いとなります。

論文発表

発表する Student Sessionで発表する
代表者1名でご記入ください。

アンケート

1.SUGI-Jへのご参加は今年で何回目ですか？

度目

2.過去、SUGI-Jやワーキンググループ、学会等でSASを使用した発表を行なったことがありますか？

はい・いいえ

3.今後、SUGI-Jやワーキンググループにて、どのようなセッションの開催を希望されますか？ご自由にお書きください。

通信欄

参加申込書は、お一人につき1枚ご記入ください。複数名のご記入はご遠慮ください。
事務処理の関係上、参加証発送先とご請求先は同一とさせていただきます。
論文発表申込者は1論文につき1名様に限り、参加費、論文集および懇親会費が無料となります。
参加申込締切は6月16日です。この日を過ぎて参加取り消しをされる場合は有料となります。予めご了承ください。
参加費のお支払いは、参加証に添付される指定の用紙を必ずご利用の上、8月3日までにお振り込みください。

お申し込みおよびお問い合わせ

日本SASユーザー会事務局

FAX.03-3533-6927 TEL.03-3533-3780

申込締切日
6月16日

Q&A

マクロ実行時にデータセットの情報を動的に入手したい (Base SAS)
 特定の分散共分散行列を持つ正規分布の疑似乱数を発生させたい (SAS/IML)
 DMステートメントでEISアプリケーションをアクティブにしたい (Base SAS、SAS/EIS)
 HTMLファイルにイメージを挿入したい (HTMLフォーマッタ)
 リモート接続の際、SIGNON時にユーザIDの入力を省略したい (SAS/CONNECT)
 ORACLE 7.3.2 へのオンサイトリンクがうまくいかない (SAS/ACCESS)
 Excel ファイルを出力する際に名前をつけたい (Base SAS)

Q SASマクロ機能を使用するSASプログラムを、汎用的に利用したいと考えています。そのため、マクロの実行時に、扱うSASデータセットの情報を動的に入手できるようにしたいのですが、可能でしょうか。

A SASシステム リリース6.12および 6.09E以降で、マクロ関数%SYSFUNCが利用できます。また、SCL関数の一部がDATAステップ中で利用できるようになりました。この機能により、以下のようにマクロ定義中において任意のSASデータセットに存在するオブザベーション数、変数の数などを動的に入手することが可能です。

マクロ定義例

```
%macro obsnvars(ds,nvarsp,nobsp);
%global &nvarsp &nobsp;
%let dsid = %sysfunc(open(&ds));
%if &dsid %then %do;
    %let &nobsp = %sysfunc(attrn(&dsid,NOBS));
    %let &nvarsp = %sysfunc(attrn(&dsid,NVARS));
    %let rc = %sysfunc(close(&dsid));
%end;
%else
%put データセットのオープンに失敗しました。
    %sysfunc(sysmsg());
%put &dsは、&nvars 変数で &nobs オブザベーションです。;
%mend obsnvars;
```

実行例

```
data example;
array a a1-a13;
do i=1 to 8;
    output;
end;
run;

%obsnvars(example,nvars,nobs) ;
```

Q 特定の分散共分散行列をもつ正規分布の疑似乱数を発生させたいのですが、簡単なプログラミング方法はありますか。

A 指定した平均 μ と分散共分散行列 G をもつ p 変量の多変量正規分布 $Np(\mu, G)$ に従う乱数は、次の手順で発生させることができます。まず、独立な p 変量の標準正規分布に従う乱数を用意し、これを $z=(z_1, z_2, \dots, z_p)'$ とします。独立なので、 $Var(z)=I$ になります。これは、1変量の標準正規分布に従う乱数を繰り返し発生させることで得られます。確率変数 z に、係数行列 G による一次変換を施した結果の分散共分散行列は、 $Var(G'z)=G'Var(z)G$ となります。この場合は $Var(z)=I$ なので、 $Var(G'z)=G'IG=G'G$ となります。この $G'G$ が I になるような行列 G を求めることが課題になります。このような行列 G は無限に存在しますが、そのうちのひとつがコレスキー分解により求められます。SAS/IMLソフトウェアでは、ROOT関数でコレスキー分解を行います。このようにして求めた行列 G を利用して、 $y=\mu+G'z$ という演算を行えば、 y は希望する多変量正規分布 $Np(\mu, G)$ に従います。SAS/IMLソフトウェアによるプログラム例を以下に示します。

```
proc iml;
/**** パラメータの定義*****/
/* 母分散共分散 */
COV={3 1 2,
      1 4 5,
      2 5 10};
/* 母平均 */
MEAN={10 4 5};
/* シード */
SEED=12345;
/*-----正規疑似乱数の生成-----*/
X=mean#j(1000,3,1)+rannor(j(1000,3,SEED))*root(COV);
/*-----データセットへの出力-----*/
create DATA1 from X;
append from X;
quit;
**** 求められた疑似乱数の標本分散共分散の計算 ****;
proc corr data=DATA1 cov nocorr;
var COL1 COL2 COL3;
run;
```

Q DMステートメントからEISアプリケーションを起動すると、PROGRAM EDITORウィンドウがアクティブになります。PROGRAM EDITORウィンドウではなく、EISアプリケーションをアクティブにする方法はありますか。

A DMステートメントで実行するコマンドを指定した後に、アクティブにするウィンドウを指定できます。この引数を省略すると、PROGRAM EDITORウィンドウがアクティブになります。
 例 次のステートメントは、起動したEISアプリケーションをアクティブにします。

```
dm 'runeis appl=sasuser.sasappl.menu.desktop' runeis ;
```

Q HTMLフォーマットを使って、SASデータセットやSASのアウトプットをHTMLファイルに変換しています。全てのファイルで、先頭に決まったイメージを挿入したいのですが、よい方法はありますか。

A HTMLフォーマットのENCODEオプションに'N'を指定して、TITLEステートメントやFOOTNOTEステートメントにHTMLのタグを記述することにより可能です。ENCODEオプションに'N'を指定すると、'＜'と'＞'がHTMLのタグとして認識されます。'Y'を指定すると、'＜'と'＞'はテキストに変換されるので注意してください(デフォルトでは'Y'に設定されています)。

例 次の例では、TITLEステートメントを使って、ファイルの先頭にイメージと文字を挿入するHTMLタグを書き込みます。

```
title '<center>';
title2 '<font color=blue size=6>SASHELP.
RETAIL</font></center>';
%ds2htm(htmlfile=c:\%html\%samp.html,
        openmode=replace,
        data=sashelp.retail,
        encode=n,
        obsnum=y,
        tbbgcolr=white,
        clbgcolr=cyan,
        bgtype=color,
        bg=beige)
```

Q SAS/CONNECTソフトウェアで、WindowsからUNIXにTCP/IPでリモート接続しています。SIGNONの実行時、アプリケーションに応じてユーザIDの入力を省略したいのですが、可能ですか。

A スクリプトファイルを変更して、ユーザIDの入力を省略できます。他のプラットフォームでも可能です。

スクリプトファイルの変更

ユーザIDの入力部分を次のように変更します。

注意)

下の例はWindows版のTCPUNIX.SCRファイルを使用しています。プラットフォームによって多少異なります。

```
/*-----UNIX LOGON-----*/
/*-- for some reason, it needs a LF to turn the line around --*/
/*-- after the login name has been typed. (A CR will not do) --*/
/*-----*/
/* input 'userid?'; */ ← コメントにする
/* type LF; */ ← コメントにする
type 'ユーザID' LF; ← この行を追加、
                    「ユーザID」は実際のユーザID

waitfor 'Password', 30 seconds : nolog;
input nodisplay 'Password?';
type LF;
```

プログラムの実行

変更したスクリプトファイルを使用して、SIGNONを実行します(上のスクリプトファイル名が c:\%sasapp%\nopass.scr の場合の例)。

```
options comamid=tcp remote=リモートホスト名;
filename rlink 'c:\%sasapp%\nopass.scr';
signon;
```

Q SASシステム リリース6.12のSAS/ACCESS to ORACLEと、Solaris2上のORACLE7.3.2のオンサイトリンクを行うと、以下のメッセージが出てリンクできません。どうすればよいでしょうか。

```
The file /opt/oracle/lib/libocic.a is needed to link the product,
and was not found.
```

A これは、ORACLE側の障害によるものです。SAS InstituteのFTPサイトから、すでにリンク済みのモジュールをダウンロードして使用できます。以下の手順で適用してください。

1.http://www.sas.com/techsup/download/maint/access/oracle/SOL2/にアクセスし、「sasorav7.3.2.1.612」をダウンロードする。

2.sasroot/sasexe/dbiの下に、「sasorav7.3.2.1.612」を「sasorav7」とファイル名を変えてコピーする。

3.chmod コマンドで、「sasorav7」を実行できるよう権限を与える。また、次の環境変数を設定する。

```
export LD_LIBRARY_PATH=/usr/ucblib:$ORACLE_HOME/lib
export EPC_DISABLED=TRUE
```

Q DDEを利用してMicrosoft Excelへデータを出力したあとに、名前をつけて保存する方法はありますか？

Microsoft Excelに対して SAVE.ASマクロを発行することによって、

ファイルに名前をつけて保存できます。具体的には、次のように記述してください。

```
/* DDEトピックを定義します */
filename cmds dde 'excel|system';

/* EXCELブックを「C:\%」に「ファイル名.xls」として保存します */
data _null_;
file cmds;
put '[save.as("C:\%ファイル名.xls",1)]';
put '[quit]';
run;
```

RESEARCH

「テクニカルサポートサービス満足度調査」集計結果

弊社では、1997年12月発行のSAS Technical News Volume 5 No. 2の発送に際して、「テクニカルサポートサービス満足度調査」のアンケート票を同封いたしました。このアンケートでは、主にSASシステムご利用者が弊害とを感じる点の調査と、それに対して弊社テクニカルサポートサービスがどの程度役立っているかの質問をさせていただきます。今後、製品やサービスに対するお客様のご意見・評価を様々な角度から分析し、指標化することでお客様の満足度をお客様の側から客観的にとらえ、今後のサービス向上に役立てることを目指していきたいと考えております。おかげさまで254件の有効回答が寄せられ、以下のように集計することができました。お忙しい中アンケートにご協力くださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。また、ご協力いただきました方々を対象に抽選の結果15名様に弊社オリジナルテレカをお送りさせていただきました。今後も、弊社およびSASシステムへのご要望・ご意見がございましたら、お気軽にお寄せください。

アンケート集計結果(有効回答数：254件)

アンケートにありました質問の中で、いくつか集計結果を報告させていただきます。なお、以下に示す集計結果では、回答者名や所属などの個人にかかわる情報は、一切公開しておりません。

業種

業種	度数	割合
化学・医薬	71	27.95
教育機関	38	14.96
情報処理サービス	23	9.05
官庁・財団等	18	7.08
サービス	13	5.11
証券	11	4.33
製造	11	4.33
銀行	8	3.15
食料品	7	2.75
商業	6	2.36
損害保険	6	2.36
通信	6	2.36
輸送機器	3	1.18
電気・ガス・原子力	3	1.18
生命保険	1	0.39
機械	1	0.39
建設	1	0.39
不動産	1	0.39
その他	26	10.23

SASシステム利用年数

利用年数	度数	割合
5年以上	137	53.93
5年未満	50	19.68
3年未満	38	14.96
1年未満	29	11.41

SASシステム利用環境

利用環境	度数	割合
PC	132	51.97
複数環境	65	24.80
UNIX	43	16.93
MF	11	4.33
DOS	5	1.97

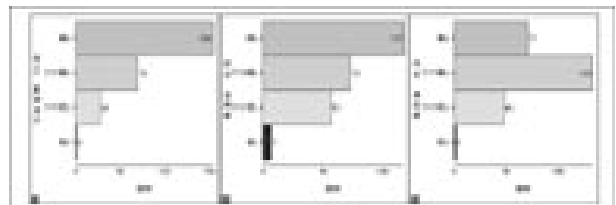
SASシステムの用途

用途	度数	割合
データ	161	64.14
情報開発	36	14.34
その他	27	10.75
情報利用	15	5.97
基幹利用	8	3.19
基幹開発	4	1.59

SASシステムはご自身の業務・研究にどの程度役立っているでしょうか。

役立	度数	平均	標準偏差
業務遂行	254	2.4803150	0.7206759
活用度	254	2.1811024	0.8749236
満足度	254	2.0748031	0.7045273

(不満足 0点 / やや不満 1点 / やや満足 2点 / 満足 3点)



SASシステムを業務・研究で使用する上で、どのようなレベルでどの程度「障害(問題)」と感ずることがあるでしょうか。

障害	度数	平均	標準偏差
マニュアル検索	251	1.31076	0.96698
マニュアル日本語化	251	1.36653	1.01248
マニュアル表現	252	1.41667	0.95151
オンラインマニュアル	239	1.56067	0.97634
マニュアル充実度	251	1.59761	0.96407
基礎教育	248	1.60081	1.00097
応用教育	245	1.69796	0.96135
日本語化	251	1.87251	0.92503
機能の充実	251	2.15936	0.81884
バグ	249	2.26908	0.87292
プログラミング	252	2.31746	0.86223
操作性	249	2.33735	0.82223

(非常に障害となる 0点 / 障害となる 1点 / やや障害となる 2点 / 障害とは思わない 3点)

SASシステムのテクニカルサポートサービスをご利用になったことがありますか。

利用	度数	割合
あり	209	82.3
なし	45	17.7

テクニカルサポート利用の理由 (複数回答)

理由	度数
・ 特殊、高度な仕様 (複雑な処理) を実現するための技術支援として	150
・ 日本語マニュアルを見たが良くわからないから	100
・ 製品の不具合 (バグ) の回避のため	71
・ 英語マニュアルは苦手だから	31
・ SASシステムを初めて使用するので何をどうしてよいかわからないから	25
・ その他	24
・ コンピュータに不慣れだから	8

テクニカルサポートをご利用いただいた際の対応の満足として、該当する項目を選択。

対応	度数	平均	標準偏差
回答のわかりやすさ	208	2.21635	0.80236
問い合わせ媒体	205	2.18537	0.99744
回答の的確さ	208	2.09135	0.89352
質問してから解決までの時間	208	1.95192	0.93126
お客様の事情に対する柔軟性	204	1.81373	0.93882
総合的な満足度	207	2.02899	0.81200

(不満足 0点 / やや不満 1点 / やや満足 2点 / 満足 3点)

テクニカルサポートを利用しない理由 (複数回答)

理由	度数
・ 社内にSASシステムについて詳しい人がいるので、社内で解決できる	12
・ その他	11
・ テクニカルサポートの利用法を知らなかった	10
・ 業務に特化したアプリケーションが構築されているので、質問の必要がない	9
・ 利用しても十分な回答を得られそうにないから	8
・ 質問しづらい雰囲気がある	7
・ テクニカルサポートの存在を知らなかった	5

SASシステムをより快適に使用するために、お客様が特に望まれる点を5つ選択し、優先順位を指定してください。

希望	度数	平均	標準偏差
マニュアル日本語化	254	1.98819	1.91000
マニュアル使勝手	254	1.72835	1.80059
高機能	254	1.60630	1.87202
日本語化	254	1.38976	1.77200
安定性	254	1.31102	1.78756
マニュアル充実度	254	1.20866	1.67750
操作性	254	0.89764	1.58219
オンラインマニュアル	254	0.78740	1.45080
応用教育	254	0.74803	1.33644
操作環境	254	0.70472	1.49948
システム条件	254	0.70079	1.41876
TS質向上	254	0.56299	1.27377
基礎教育	254	0.35433	1.06342
TS問い合わせ媒体	254	0.30709	0.94523

希望するものほど平均が高い値になります。
(最も要求の高いもの 5点 ~ 5番目に要求の高いもの 1点 / それ以下 0点)

テクニカルサポートサービスに対する意見

最後に、お客様から寄せられたコメントの中でテクニカルサポートに対するもので特に多かったものを以下に挙げさせていただきます。

- ・ インターネット上のFAQを豊富にして欲しい。
- ・ テクニカルサポートへの問い合わせ担当を、複数名登録できるようにして欲しい。
- ・ テクニカルサポートサービス時間の延長。
- ・ 電話での対応について

上記以外にも、サービス内容に対する具体的なクレーム、お誉めのコメントなど数多くいただきました。今後、テクニカルサポートではこれらのご意見を参考にサービス向上を図っていきたいと考えております。何とぞよろしくご意見申し上げます。

TSNEWS J-L メーリングリスト試験運用のお知らせ

1998年3月2日より、SASシステムに関する技術的なアナウンスをお客様にお送りするためのメーリングリストの試験運用を、下記の要領で行います。

試験運転期間：98年3月2日 9:00 ~ 98年5月29日 17:00

このメーリングリストIDは、以下の情報のアナウンスの目的で使用します。

- ・ SASシステムの使用上の注意点
- ・ SASシステムに関する技術情報提供
- ・ SASシステムに関するFAQ(テキスト版)

登録/削除方法

- ・ 購読を希望する(Subscribe)

このメーリングリストに登録する方は、登録するメールアドレスから以下の方法で登録メールをお送りください。

メールの送付先：majordomo@jpn.sas.com

メールの本文：subscribe TSNEWSJ-L

- ・ 購読を取り消す(Unsubscribe)

登録後に削除を希望される場合には、登録済みのメールアドレスから以下の方法で登録取り消しメールをお送りください。

メールの送付先：majordomo@jpn.sas.com

メールの本文：unsubscribe TSNEWSJ-L

SAS Training

SASトレーニングのお知らせ



新コースのご案内

1998年4月より次の2コースを新規コースとして開催いたします。

初級プログラミングコース

コース内容：さまざまな形式の外部データを読み込んでSASデータセットを作成する方法、SASファイルの管理方法、データの加工や抽出方法を、SASプログラムを作成しながら説明します。基本的な用語や機能を中心にした、これからSASプログラムを学ばれる方のためのコースです。

受講料：お一人様 ¥40,000

講習日数：2日間

上級プログラミングコース

コース内容：複雑な形式のデータの読み込みや繰り返し処理、キー項目によるデータのマッチング処理など、高度なプログラミングテクニックを中心に、DATAステップとPROCステップを解説します。複雑なデータ加工処理を行う方や、システム開発を行う方にお勧めするコースです。

受講料：お一人様 ¥40,000

講習日数：2日間

詳しくは「SASトレーニングのご案内('97年12月~'98年6月)」をご覧ください。

追加開催のお知らせ

「SASトレーニングのご案内('97年12月~'98年6月)」のスケジュールには記載されていませんが、下記の各コースを追加開催いたします。ぜひご参加下さい。

- ・東京会場：分散分析コース (4/13 1日間)
カテゴリーカルデータ解析コース (6/1~2 2日間)
- ・大阪会場：IML入門コース (4/23 1日間)
ビジュアルデータ解析コース (4/24 1日間)
SASによる回帰分析コース (6/22~23 2日間)

定期トレーニング申込書

フリガナ _____		ご住所(〒 _____)	
フリガナ _____	貴社名 _____	ご所属 _____	
<small>かならず正式社名をお書きください。</small>		TEL. _____	
フリガナ _____	受講者のお名前 _____	FAX. _____	
		E-mail _____	
受講者されるコース			
開催日	会場	コース名	サービスチケット使用 番号 _____
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
月 日	東京・大阪	_____	する() しない
			無料券使用
			する しない

請求書送付先が異なる場合はこちらの欄にご記入ください。その他ご意見、ご要望などもご記入ください。

お申し込みおよびお問い合わせ

(株)SASインスティテュートジャパン 教育担当

TEL.03-3533-3833 FAX.03-3533-3781

Update

アップデート情報



提供された修正モジュール

I. OSR2.1版 Windows 95対応ファイル

ファイル名 : sasosr21.lzh
 対応プラットフォーム : Windows 95 OSR2.1
 使用方法 : LHAで解凍後、readme.txtファイルをご覧ください。

1. 対象リリース

Windows版 SASシステム リリース6.12 TS020 DBCS2716

2. 修正内容

この修正ファイルを適用することにより、次の不具合が修正されます。

(現象)

OSR(OEM Service Release)2.1版 Windows 95上で SASシステムリリース 6.12 TS020 を使用すると、起動時に次のエラーが発生してシステムがフリーズする。

```
SAS のページ違反です。
モジュール : KRNL386.EXE アドレス : 0001:0000664b
Registers:
EAX=00000001 CS=014f EIP=0000664b EFLGS=00000216
...
```

```
例外 0E が VxD VWIN32(05) + 00001860 の 0028:C0267B54
で発生しました。VxD VWIN32(05) + 000014C9 の 0028:C02677BD
からの呼び出しです。このまま続けてもかまいません。
...
```

II. Solaris 2.6対応修正モジュール

ファイル名 : sasmotif.sol26.Z
 対応プラットフォーム : SunOS 5.6 (Solaris 2.6)
 使用方法 : uncompressで解凍後、sas612/dbcs/sasexeディレクトリにsasmotifという名前
 でコピーしてください。

1. 対象リリース

SunOS版 SASシステム リリース6.12 TS020 DBCS2716

2. 修正内容

この修正ファイルを適用することにより、次の不具合が修正されます。

(現象)

Solaris 2.6 にバンドルされているXウィンドウシステムを使用している場合、次のエラーが発生してSASシステムを起動できない。

```
Id.so.1:sas:重大なエラー:再配置エラー:
ファイル /usr/openwin/lib/locale/common/xmLTRTTB.so.2:
シンボル:
_XlCCompileResourceList: 参照されたシンボルがありません
Killed
```

モジュール入手方法

上記のモジュールは、次のいずれかの方法で入手できます。

NIFTY-Serve SAS Station の利用

1. NIFTY-Serve のトップメニューで「GO SAS」を入力し、SAS Stationに入ります。
2. 「4:データライブラリ」を選択します。
3. 「4 メンテナンスモジュール」に登録してありますので、それぞれダウンロードしてください。

WWW FTPサービスの利用

1. 弊社ホームページのFTPサービスのページ (<http://www.sas.com/japan/q/ftp.html>)にアクセスし、「FTPサービス -- サーバに接続」をクリックします。
2. ディレクトリは、<http://ftp.sas.com/pub/webfiles/Japan/maint/windows/612> です。

anonymous FTPサービスの利用

1. ftp.sas.com にFTP接続します。
2. ユーザIDとパスワードは、以下を使用してください。
Name (ftp.sas.com.userid):anonymous
Password:お客様のE-mailアドレス
3. ディレクトリは、/pub/webfiles/Japan/maint/windows/612 です。
上記の方法で入手することが困難な場合には、弊社テクニカルサポートにご相談下さい(TEL: 03-3533-3877)。

Latest Releases

最新リリース情報

UNIXプラットフォーム

MIPS ABI版	SASシステムリリース 6.11 TS040
Digital Unix版	SASシステムリリース 6.12 TS040
ABI+版	SASシステムリリース 6.11 TS040
SunOSおよびSolaris版	SASシステムリリース 6.12 TS020
HP-UX版	SASシステムリリース 6.12 TS020
AIX版	SASシステムリリース 6.12 TS020

PCプラットフォーム

Windows版	SASシステムリリース 6.12 TS020
OS/2版	SASシステムリリース 6.12 TS020
Macintosh版	SASシステムリリース 6.12 TS040*
Macintosh版	SASシステムリリース 6.10 TS038

ミニコンピュータプラットフォーム

OpenVMS AXP版	SASシステムリリース 6.12 TS020
OpenVMS VAX版	SASシステムリリース 6.08 TS407

メインフレームプラットフォーム

MVS版	SASシステムリリース 6.09E TS450
MSP版	SASシステムリリース 6.08 TS415
VOS3版	SASシステムリリース 6.08 TS420
CMS版	SASシステムリリース 6.08 TS410

(*印は現在準備中です。)



SAS Technical News

March 1998, Volume 5 Number 3

発行
株式会社SASインスティテュートジャパン

東京本社
〒104-0054 東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ 8F
TEL: 03-3533-3780 FAX: 03-3533-6927

大阪営業所
〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館 12F
TEL: 06-345-5700 FAX: 06-345-5655

URL <http://www.sas.com/japan/>
NIFTY SERVE SAS Station: go sas